

私達が未来につないでいけるように

高知県農業協同組合 女性部 南国市地区 大篠支部 支部長
窪田 理佳

1. 大篠子ども食堂 これまでの経過

大篠子ども食堂は高知県南国市の中心部にあります。地元の小学校は県内でも児童数が大変多い学校です。子ども食堂はJ A高知県大篠支所の2階を貸していただき開催しています。

大篠子ども食堂を運営しているのはJ A高知県女性部南国市地区大篠支部の部員達です。「小学校で夏休み明けに痩せている子どもがい

る！」という、部員からの何気ない会話から始まりました。「この支所の2階で子ども食堂ができたらいいね！」別の部員からも「女性部がやってもえいがでー！」と声があがりました。支部長の私はこの言葉が心に引つ掛かっていました。女性部って何だろう？ こういう時に地域のおばちゃん達は何かしないといけないのではないか？ 自問自答を繰り返すこととなりました。始めると決めたからには即、行動です。まず

南国市役所に出向き、市の子ども食堂担当窓口として「子ども相談係」をご紹介いただきました。そして高知県社会福祉協議会（以下、県社協^{*1}）の指導のもと準備を進めることとなりました。一番大事なことは「誰がやるのか？」ですが、部員にアンケートをとり、賛同者を募りました。当日のボランティアや食材提供が出来る方など、約30名が手を挙げました。

子ども食堂は資金ゼロからスタートしました。チラシを作成するにもお金がありません。こども相談係の担当者に相談すると「印刷だけならできますよ！」と大変ありがたい返事をいただきました。今ではチラシの原稿をパソコンで作成し、メールで送ると印刷してもらえます。平成30年5月12日（土）オープンに向けチラシを配布、宣伝にも力を入れました。まずは子ども食堂の存在を知ってもらうこと、また何かあつてはいけませんので、消防署や警察署、地

元スーパーや部員の知人などに、地元小学校には家庭数、中学校にも配布しました。J Aや南国市の広報にも載せてもらい、市の広報では冷蔵庫やテーブルの寄付も募りました。^{*3} 実際、市民の方からいただいて使用しています。オープン当日はTV局2社と新聞社1社の取材を受け、大篠子ども食堂を多くの方々にも知ってもらえるきっかけとなりました。まだ、この当時はマスクをしていないのが今とは違う様子ですね（写真）。

(写真) 大篠子ども食堂
オープン時の様子

- (*1) 高知県社協の子ども食堂支援は高知県からの受託事業。
高知県社会福祉協議会ウェブサイト
<http://www.kochiken-shakyo.or.jp/document/?group=grp42>
- (*2) 大篠子子ども食堂オープン当時はJ A 南国市。
南国市「広報なんこく」2018年5月号 20ページ
南国市ウェブサイト
- (*3) <https://www.city.nankoku.lg.jp/download/?i=KHN&id=160&iid=37241>

平成30年5月から令和2年2月までのバイキング方式での来場者数です(表1)。1年目は8月に2回行いましたが、他の月と比べ一番少ない人数です。高知では花火大会やよさこい祭りの時期と重なります。また、中学生が少ないのが分かります。2年目は8月を1回にしました。中学生が増えているのが分かります。クラブや授業など時間が合わないこともあるのですが、小学生の時に子ども食堂を利用した子ども達が中学生になっても抵抗なく来てくれるようになったのだと思います。大人とは、子ども達の親や祖父母、地域の様々な世代の方々のことです。2年目は段々と利用者数が増え、

(表1) 子ども食堂 来場者数一覧表
【バイキング方式】平成30年5月～令和2年2月

H30.5 ~R2.2	大人	子ども		総合計	一回平均
		中高生	小学生以下		
累計	1,398名 36.5%	100名	2,332名 63.5%	3,830名	約174名

平成30年度	H30.5/12	6/9	7/14	8/11	8/25 (第4土曜)	9/8	10/13	11/17 (第3土曜)	12/8	H31.1/12	2/9	3/9	合計
大人	50	65	41	49	40	62	71	48	59	57	64	62	668
中高生		1	1	5	3	5	1	3	3	4	2	9	37
小学生以下	100	104	98	68	79	100	126	86	117	101	113	132	1,224
小計	150	170	140	122	122	167	198	137	179	162	179	203	1,929

平成31年度 令和元年度	H31.4/13	R1.5/11	6/8	7/13	8/10	9/21	10/12	11/16	12/14	R2.1/11	2/8	3/14	合計
大人	79	54	82	80	58	68	食費により中止	68	67	89	85	コロンバネ子ども食堂	730
中高生	4	10	4	8	4	12		5	7	5	4		63
小学生以下	120	103	129	104	70	122		125	128	108	99		1,108
小計	203	167	215	192	132	202		198	202	202	188		1,901

(出典) 報告者作成

200名を超えることができました。

2. 子ども食堂の特徴

大篠子ども食堂の特徴は、①提供される多様な旬の食材、②メニューが豊富、③利用者が多い、などです。

食材は部員や株式会社南国スタイル^{(*)4}、地元や区域外の方々から野菜やお米などをご提供いただいています。とてもありがたく感謝しています。また、メニューが豊富というのもこの食堂の魅力の一つです。品数が多いことに関しては部員でも意見が分かりますが、食材は基本的には子ども食堂への寄付なので子ども達へ料理という形で提供することが大前提となります。同じ食材がたくさんあれば違う料理を作ったり、お皿の料理が無くなれば補充したりして、食材をなるべく使い切る努力をしています。また、前日や当日突然いただける食材もあり、どん

んメニューが増える結果となっています。

(*)4 J A 出資型農業法人 株式会社南国スタイルウェブサイト
<http://nanokustyle.co.jp/>

食堂の開催準備について、献立作成は役員のみで行います。買い出しや保険加入手続き、前日には調理器具などの洗浄、会場準備、スタッフの確認をします。当日参加できない方のみ連絡してもらおうようにしています。

食材提供者名と献立表を毎回会場に貼りだしています。献立表は前日までに決まっていますのを書き、当日はこれに追加します。

提供いただいている食材は、パプリカ、ピーマン、なす、トマト、ねぎ、大根、きゅうり、甘とう、ほうれん草、オクラ、ニラ、キャベツ、じゃがいも、赤大根、ブロッコリーなどです。鶏卵は2か所から計300個いただいています。食堂が始まった頃に古々米をいただき「パットライス(ボン菓子)」に加工しました。材料は

お弁当方式の開催準備も、献立作成は役員のみほかに試作、買い出し、保険、お手伝いの方へのメニューの配布、会場準備、当日のスタッフの確認です。

お弁当は大体の食材の量などを把握するため、必ず試作します。実際にパックに詰めた時の美しさも見ます。おかずの品数は7種類を基本とし、ごはんのパックとバナナ半分、子どもにはパットライスが付きまます。バナナのパックにメニューと注意事項の紙を付けまます。お弁当を詰める作業はなかなか大変です。

11時より受付を開始するので、お天気が良ければ椅子を外に並べまます。現在は椅子の数を増やしてまます。お弁当の時も外に献立、食材提供者の紙を張り出してまます。コロナ禍の資料として、ハンドソープや除菌シート、県の非常用飲料水や防災食を提供してまます。

サポート体制としては、JAより場所と光熱

費の提供を受けてまます。また南国スタイルより野菜を毎回いただてまます。小学校では子ども食堂のチラシを年2回家庭数配布してまます。地域の方々には野菜やお米などの食材のほか、温かく見守っていただてまます。

大篠子ども食堂は、高知県の子ども食堂の登録制度を利用してまます。県の子ども食堂ネットワーク会議などに参加し、他の子ども食堂の方々との交流や意見交換を行うほか、県社協を通じて寄付された食材等を分けあてまます。

コロナ禍で取り組んでみて、バイキングとお弁当でのあり方の違いが見えてまます。

地域では縦横の繋がり、先輩から若い人達への交流が少なくなてまます。子ども食堂の参加者は家族連れ、子ども同士、地域の方々などで、色々な世代の方々で賑わてまます。お弁当は、階段を使うために会場に来られない高齢者の利用が目立ち、持ち帰れることが数を伸ば

(表2) 子ども食堂 来場者数一覧表
【お弁当方式】令和2年6月～10月

R2.6 ～R2.10	大人	子ども		総合計	一回平均
		中高生	小学生以下		
	696名	75名	479名	1,250名	250名
累計	55.7%	44.3%			

令和2年度	R2.4月	5月	6/13	7/11	8/8	9/19 (第3土曜日)	10/10	合計
大人	コロナにより 中止		123	129	158	144	142	696
中高生			20	18	6	17	14	75
小学生以下			107	103	86	89	94	479
小計			250	250	250	250	250	1,250

(出典) 報告者作成

す一因になってまます。11月の食堂では、11時の受付からたくさんの方が待ち始め、11時半のオープン時には行列になり、20分ほどで250枚の整理券が出てまました。学校で配布したチラシの効果もありますが、たくさんの方々子ども食堂、お弁当を楽しみに待てまますのはとてもうれしい悲鳴です。作り手の私達だけでは食堂も意味を成しませんが、関心を持つ方を利用してくれる方、協力してくれる地域の体制など、みんなで作てまます食堂であることが強く感じられ、感謝の気持ちでいっぱいです。

しかし6月～11月まで6回開催してみて、お弁当作りの大変さも分かってまました。短時間の調理は大変忙しく、高齢のボランティアも多なことから、身体的負担が大きてまました。来年1月よりお弁当の数を200食とし、地域の大人のみの方はお弁当の数を1つと限定し、よ

り多くの子ども達が利用できるようにしようという話し合いをもちました。

4. 最後に

大篠子ども食堂を利用している子ども達が大人になった時、子ども食堂を利用した経験はものすごく大きな心の糧になっていくと思います。各々の子ども達の食堂の利用理由は違うかもしれませんが、おなかいっぱいに食べられる！お父さんお母さんや友達などと楽しく参加したという、楽しい嬉しい明るい思い出は子ども達が成長していく過程にはとても大切なことです。また自分達のために料理を作ってくれるおばちゃん達がいたということ、おなかも心も満たしてくれるという、全て含めての経験・思い出は意識しなくても当たり前のように子ども達自身に浸透していると思います。子ども達は大人になって、嫌なことや辛いことがあっても、親

る空気は明るくてパワーがあり、活性化していることだと思います。地味に地道にじわーっと根付き、続けることが大事だと思います。

大篠子ども食堂は場所を提供してくれるJAや、食材などを寄付してくれる方々、料理を作る私達、利用してくれる子ども達や地域の方々、そしてそれをもっとサポートしてくれる市や県の取組みなど、それぞれの役割や協力があったこそ、食堂を続けていけるのだと思います。

(写真) 準備の様子等



や友達との食堂での思い出、地域に関わった経験が良い意味で蓄積されて、きつと乗り越えられる力のもとには少しでもなっけてくれるのではないかと思います。小さな子ども食堂を通してまたその子ども達へと心も経験もつないでいって欲しいと思います。数字が示しているようにたくさんさんの需要があります。

私達ができることは、子ども食堂という場所を通して、昔ながらの普通の料理、季節を感じてもらえる料理を作ることしかできませんが、今の若い親世代にそういう料理も伝えたいし、また地域のおばちゃん達という役割も感じてもらいたいのです。子ども食堂をどんどん利用してもらって、僅か月一回ですが、お腹も心も満たしてもらえようように、私達も永く続けていけるように、時代の変化に合わせながら頑張っていきます。月一回、会場の支所の周りにはたくさんの方で賑わっています。楽しくわくわくす